

一般社団法人 埼玉私保連



# 広報

No.141

R1. 11月

発行



今年も大収穫  
—サツマ芋ほり—

Saitamaken Siritu Hoikuen Renmei

# 保育士養成校関係者との

# 情報交換会

日時：令和1年9月9日（月）  
会場：埼玉会館  
主催：情報交換会実行委員会

当日は72名（保育関係者57名、養成校関係者15名）の参加者が、グループでの意見交換、名刺交換などを行いました。保育士不足の現状から保育実習や人材育成などの話がメインでした。



長く恒例となっっている情報交換会ですが、内容・形式・地区別開催などその役割に変化が求められているようです。

（広報部）



# 中堅職員研修会

# 危機管理を学ぶ事例を通して

日時：令和1年9月11日（水）  
会場：With Youさいたま  
講師：寺町東子氏  
セミナー室

保育の中で一番大切なことは、「子どものいのちを守る」ことである。昨年の指針の改定で「健康及び安全」が変わり、明確に「生命の保持」が書き込まれた中で、それを知らなかった、習っていなかったということにはならない。

「いのち」を守るとは、子ども一人ひとりの存在を大切にしてい、ていねいに対応する保育を行うことである。

指針には、養護の中身として「生命の保持」と「情緒の安定」が記されている。その、それぞれの項目には、共通して「一人ひとりの子ども」と書かれている。そこから、保育園の養護は、「一人ひとりを大切にすること」を推さえる必要がある。

日頃の子どもの様子、その子のその時のちょっと変だなと思っただけを、とらえるか、とらえないかで、重大事故を防げるかどうかに関係してくる。そして、その結果として、保護者も安心して子育てが出来るようになっていく。





事故の原因は一つではない。事故防止策も一つではない。保育の事故は、誰か一人がミスしたから起こるのではなく、組織の問題である。職員間の仲が悪い園に事故が起きやすい。

人は一人ひとり違う。「みんな違って、みんないい」は、子どもだけでなく、職員間にも言えること。一人ひとりの保育観や考え方の違いがあつてよい、その違いから色々な角度で事故要因の分析をして、事故予防につなげていくチーム力が大切である。「ヒヤリハット」をたくさん集めることに意義がある。そして集めたことを改善策につなげていくことが大切である。



以上、お話の要点であります。保育事故の事例を挙げながらのお話は、とても分かりやすく、学びの多い研修会でした。参加者のグループワークでも、様々な意見・感想が挙げられ、大変良い時間を過ごすことが出来ました。

最後に、先生が必ず読むようにとお話されていたガイドライン等は、各園確認されるようお勧めします。



\* 教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン

\* 保育所における感染症対策ガイドライン

\* 保育所におけるアレルギー対応ガイドライン

\* 保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト

\* 保育所保育指針の幼保保健連携型認定こども園教育保育要領

第3章「健康及び安全」3(2) 事故防止及び安全対策

(報告 研修部)

## 埼玉県福祉部少子政策課との面談について

日時：令和1年9月17日（火）  
場所：さいたま共済会館

この日、令和2年度保育関係予算要望について、県の担当課との面談が行われました。県からは少子政策課より岸田課長はじめ7名、社会福祉課より2名の出席。連盟からは会員約40名が出席、そのほかに各会派の県会議員6名も傍聴参加されました。以下に当日のようすをお伝えします。

### 〈県からの回答〉

・4、5歳児については国も25対1で検討に入っている。早期実現を国に要望する。



・産休代替職員について、来年度は月額6、968円から7、184円に改善するための十分な予算確保をしていくよう努める。

・処遇改善については、地域区分の見直し、公定価格の見直しを国に引き続き要請していく。県単独補助は財政的に厳しいが、処遇改善加算Ⅱの100%取得、就職フェア、宿舍借り上げ制度、就職準備金貸付制度の活用等呼び掛ける。――事前の要望書に関する回答は以上のようなものでした。

また、会員からは今回の幼児教育・保育の無償化に伴う徴収額に質問が出ました。すなわち「国が当初示した副食費4、500円が5、181円となり各園での差額負担が加わることは運営的にも厳しい。県としての見解はどのようなのか」とのことでした。県は「国の決めたこと」との見解でしたので「是非、新しい知事にこの情報を伝えてほしい」という強い要望が出ました。参加した議員からも「大野知事は『県民に向き合う』ことを公約しており、ぜひ現場の生の声を知事に伝える仕組みを作っていきましょう」と呼び掛けていました。（※この

件に関しては、翌日内閣府より通達あり、5、181円と栄養管理加算・チーム保育推進加算拡充措置の実施が見送り。「府子本第511号 子発0918第1号」

その他にも、調査部アンケートでも明らかになった人材派遣業に多額の委託費が支払われている実態、東京都への人材流出対策としての県の処遇改善等の意見、要望が沢山出ました。（その他としては、新卒採用のための助成、障害児加算の実態に合わせた認定方法、産休制度補助金の充実、4、5歳児配置基準の問題、無償化を低所得家庭に恩恵ある制度に、など。）面談終了後、参加した議員の紹介で県福祉部長、さらには知事特別秘書にも会い要望を伝えました。（予対部）



# 『大宮駅頭で署名活動を行いました』

日時：令和1年10月1日(火)14時～15時半  
場所：大宮駅西口デッキ

これまで土曜日に行ってきた保育請願署名活動を行事都合や参加者数の減少等の理由で平日開催にしました。また昨年は日程調整が上手くいかなかった関係で中止でしたので2年振りとなりました。そんな中まさかの猛暑、平日開催にも拘わらず33人が参加してくださいました。しかしこの条件下でどれだけ署名が集まるのか始める前は心配でした。



少しでも目立つようにと風船を横断幕などのまわりに付けました。大宮駅前を行き交うのは買い物客、仕事人、学生、海外の観光客などで親子連れも土曜日ほどいませんでした。そんな中、エプロンをつけた参加者が分散し、熱心に「署名お願いします！」と呼び掛け、直接声をかけ、現状を説明するなどして署名を集めていました。保育士志望という女子学生3人組も署名してくれ、別れ際「頑張ってください！」と声援を送ってくれました。



そして1時間半のあいだに何と301筆集まりました!! 参加してくださった方々、またスタッフを送り出してくださった職場の皆様ありがとうございます。署名を集める中で感じたのは、今回の幼児教育・保育の無償化についての詳細は、世の中の人にはまだまだ知られていないということでした。これからも活動を続けたいと思います。(予対部)



# 新人向け研修会「保育を楽しむためのコミュニケーション力を高めよう!!」

日時：令和1年10月28日（月）  
場所：埼玉会館

毎年実施している青年会議主催の新人研修会に、今年も40名ほどの先生方が集まりました。調査部調査から新卒並びに職員の先生方の出席確保がなかなか難しいことが分かり、参加人数が気になるところでしたが、意欲のある先生方がたくさん集まり、活気あふれる研修会になりました。人材不足の心配が浮き彫りになっている現状ですが、だからこそ一人ひとりの先生方を育てることが大切なのではないかと感じています。

今回は外部講師を招かず、講義、ワークショップを中心に「人と関わる体験型の研修会」を中心に行ったことで、参加者の皆さんが発言をする機会も多くあり、同じ境遇にある仲間か

らの声に耳を傾けながら参加する姿が見られました。

まず、苦情解決には「傾聴する姿勢が大切であること」を実践形式で行いました。緊張でドキドキしたかもしれないかもしれません。皆さん相手の趣旨を理解することに努めていたように思えます。中には「苦情を受けたことがまだありません」と

お話をされていた先生もいて、きっと先輩たちが対応してくれているのではないかと想像したりしました。あるいは本当に苦情のない保育園なのかもしれません。  
今回の研修は3年未満の先生方が多く参加されていましたが、初心に戻って参加を希望された方など参加できたことに感謝しているという声も聞かれました。



経験の差もある仲間が集まり、保育計画を20分で作成するワークショップも行いました。

互いの意見を出し合いながら、各グループの活発な意見交換が見られました。保育園は話し合いの時間が取りにくいと思いますが、複数担任での保育を実践することも多くあり、保育の質の向上を図るためにも日々の職員間のコミュニケーションを図り、互いの価値観をぶつけ合いつつ、子どもの育ちを共有する保育計画を作成することが大切ではないかと思っています。記入して頂いたアンケート中にも20分間でも有効に活用することで話し合いができることを体験したとか、日々の話し合いをできるだけで持てるよう心掛けていきたいなどの感想が多くありました。

他にも簡単に作れる「手作り絵本」制作や社会人としてのマナーやルールを確認し、賑やかな研修会となりました。参加者の皆さんからアンケートを頂きましたので、以下記載させていただきます。



〈アンケートによる感想〉

○実践演習が自分の保育の引き出しに繋がりが良かった。保育士という職業に現在悩みつつあるが、今日の研修で答えの一つとして考えたい。

○実践演習を通して、保護者や保育士の立場になって参加出来たことは、実際の現場をイメージできたので良かった。

○子どもと関わる中で、言葉を掛けない無言が一番嫌な気持ちになることが演習を通して分かった。私たち保育士は肯定的な言葉を掛けながら関わることは勿論のこと、保護者と子どものやり取りに注目し保護者の気持ちを理解し、力になれるように関わっていききたい。

○他園と関わる時間があってよかった。また時間がないから話し合いができないのではなく、約20分でも話ができることが分かった。

○コミュニケーションはあまり得意ではないので今後に役立てたい。

○1年目は私だけの園なので悩みを共有できる人がいない為、本当に参加出来てよかった。「私だけじゃないんだ」と思えた。

○基本的な書類提出の期限を守り、報告することの大切さを感じた。先ずは基礎的なことを丁寧に行いたいと感じた。「3つの種」がとても印象的で良い体験になった。

○「3往復の会話」をすることを意識することができ心に残った。

○社会人としてのルールや園のルールを普段の保育の見直しに繋げて学ぶことができた。

○3年以内の先生方が多く、コミュニケーションが取りやすかった。楽しい時間だった。

○今までの保育の仕方を見直し、これからも今まで以上に良い保育を行っていききたい。

○初めての研修でとても緊張していたが楽しかった。最後の意見交換の時間がとても良かった。もっと話があったかったです。今回のような新人研修会で意見交換ができると嬉しいです。

以上  
(青年会議 多田 郁子)



### 全国私立保育園連盟

### 関東ブロック保育研究大会

### 〔群馬大会報告および〕

### 埼玉大会PRのようす！

11月21日・22日の両日にわたり、前橋を会場とした同大会に埼玉県からもそれ相応の人数の参加がありました。八木節アトラクション、行政説明、基調講演と順調に進行し、全体会の最後には次期開催県として、埼玉からの参加者によるPRが行われました。

壇上に古き良き川越の風景が映し出され、手作りの横断幕で次期大会の参加を呼びかけました。来年の埼玉大会にはぜひ大勢のみなさま御参加ください。お待ちしております。

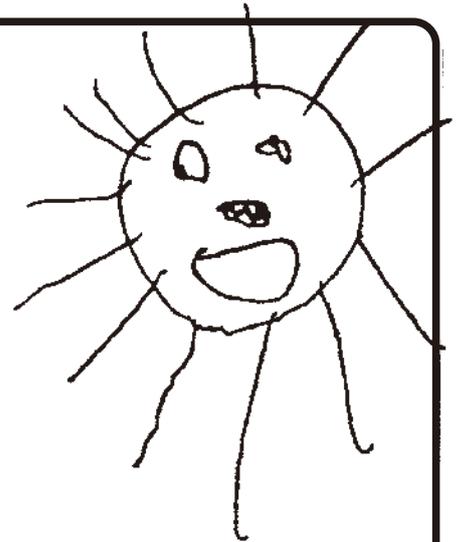
(広報部)



横断幕題字・絵  
事務局 宮澤千代子さん

第48回 関東ブロック保育研究大会〈埼玉大会〉  
 開催日 令和2年11月19日(木)～20日(金)  
 会場 ウェスタ川越

# 園および園児を さまざまなリスクから サポートします



園経営には、さまざまなリスクが伴います。  
(公社)全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、  
園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する  
各種保険を取り扱っております。

## ほいくのほけん

「園賠償責任保険」  
「園児団体傷害保険(学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険)」  
「特別保育事業賠償責任保険」  
など、園経営におけるリスクに関する保険を  
ラインナップしています。また、それらを総合的に  
補償するセットプランもご用意しております。

## 園児総合保障 共済制度

園児を24時間補償する共済制度  
(総合生活保険(こども総合補償))です。  
団体契約による割引の適用で割安な掛金で  
補償を確保することができます。

上記以外にも、「学童保育」などの、保険を取り扱っております。  
ご照会は、下記連絡先にどうぞ。

〈連絡先〉 (公社)全国私立保育園連盟指定  
東京海上日動火災保険株式会社代理店

## 有限会社ゼンポ

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内  
TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

〈引受保険会社〉  
東京海上日動火災保険株式会社  
担当課：公務第二部 文教公務室  
TEL：03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害  
保健特約付帯傷害保険・総合生活保険(こども総合補償)の概要について  
ご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパフレットをご覧ください。  
詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育園連盟にお渡しする  
保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険  
会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要  
事項説明書」をよくお読みください。

